



# 崇鳳習俗の日中比較

趙李娜

(華東師範大学中国非物質文化遺産保護研究中心)



鳳凰は中華文化が創造した神鳥で、文化交流によって日本にも伝播し、民俗文化の中で一定の地位を有している。本文は「鳳凰崇拜」が日中で異なることについて、その起源や変遷及び各文化背景における扱われ方の相違について見ていく。

## 一、中国における鳳凰が象徴する概念の移り変わり

### (1) トーテム崇拜から神霊崇拜への変遷

鳳凰は中国原始文化において、鳥と太陽に関する神秘的なものとして起源段階ではトーテム崇拜の性質を持ち、後に神秘性と象徴意義が与えられ神霊崇拜の性質を有した。春秋戦国から漢代において四神概念の中で、鳳凰と朱雀は同質のものとして見なされるようになった。

### (2) 陰陽不分から女性専属へ、そして王権専属から民間へ

鳳凰は最初純粹陽性だったが、後に「鳳は雄、凰は雌」と区分され、早い段階で鳳は神聖で崇高なものとなり皇帝に関するものに用いられるようになった。宋元代以降、龍の地位が高くなると鳳は皇后やその装飾品専属の呼称となった。明清代には皇室女性の衣装等に使用されるようになり、その後民間でも吉祥を表すものとして使用されるようになった。

## 二、日本における鳳凰の伝承と変遷

### (1) 基礎：原始鳥霊崇拜

日本において鳳凰は渡来文化であったが、以前から鳥霊信仰と太陽崇拜があったため日本の文化に根付くことができた。弥生時代には多くの木製鳥型が出土され、『古事記』や『日本書紀』には鳥信仰に関する重要な証拠が書かれている。

### (2) 渡来：四神の中の朱雀

朱雀（鳳凰）は弥生～古墳時代に四神図を通じて朝鮮半島経由で日本に渡来した。キトラ古墳の壁画や薬師如来台座南面の朱雀などから鳳凰信仰の受容がうかがえる。

### (3) 伝承：王権と神聖

銅鏡は鳳凰が日本へ伝承した際の主要物の一つとして重宝され、同時に鳳凰も超自然的地位を得た。鳳凰は日本に伝来して以降高貴な地位を保持し、天皇専属のもの

となった。

## 三、日中両国における崇鳳習俗の比較研究

### (1) 文献

中国の多くの古典文献の中で鳳凰に関する記載が見られる。『日本書紀』の中でも鳳凰に関する記述があり、鳳凰への認識は日本と中国で一致している。

### (2) 器具

鳳凰は両国で銅鏡や陶器の装飾に用いられていたが、鳳輦においては日中で差異があった。中国では最初皇帝専用だったが後に妃専用となり、同時に媽祖の乗り物となるなど民間信仰にも使われた。しかし日本では天皇専属のものとして使用されていた。

### (3) 服飾

鳳凰は明清代には皇后専用の装飾であったが、清代以降民間にも広まり吉祥や美しさを表すものとなった。それに対し日本では主として天皇の礼服に用いられ、「鷄芸」祭祀の服装にも用いられていた。

### (4) 建築

中国では秦漢代に瓦上に朱雀の装飾が施されたり故宮の石段上に鳳凰が装飾されたりしていた。日本では寺院の屋根に金色の鳳凰が神聖なものとして飾られていた。

### (5) 祭祀及び民俗芸能

古代中国では鳳凰の舞があり、現代でもヤオ族で龍鳳舞が見られる。日本の「鳳凰の舞」は神事活動の影響が大きく、儀式としてのプロセスが見られる。両国の鳳凰の舞には雨乞いの意味が含まれる。鳳凰の両漢字には「舞」の意味があり、『周礼・地官・舞师』中に“雩祭”つまり雨乞い儀式の意味と記されている。

両国の鳳凰の舞の違いを見ると、日本の鳳凰の舞は長い伝承の歴史がある大きな祭祀活動であるが、中国では鳳凰に関する古代の舞踊には雨乞いの意味があったが、現在では多くの地域ですで見られなく、祭祀の意味も既に失われている。